「２０２１評論展望」　川名 大

三橋鷹女の評伝

槍田良枝「三橋鷹女の世界一～四」（「稲」21年5・7・11月）――鷹女に関する評伝的著作や論考はいくつかあるが、本稿は一次資料の博捜に基づき、特に鷹女の昭和初期（夫剣三との競詠時代）の研究を大きく前進させた画期的な評伝。昭和初期の「鹿火屋」および「雲母」系統の小句会「つるばみ吟社」「早稲田クワルテット句座」「而立道場三昧」「九萬三居偶会」に出句した鷹女と剣三の句を「鹿火屋」「雲母」の各句会報から全て拾い出すと共に、「鹿火屋」「雲母」、「東京日日新聞」の原石鼎選「日日俳句」から全て拾い出し、鷹女・剣三競詠時代のひたむきな精進を浮き彫りにした。その調査によれば、鷹女の最初の句は「日日俳句」(昭3・10・27)に投句した二句であり、句会報としては「つるばみ吟社句会」（「鹿火屋」昭3・12)の一句が最初である。この圧巻の作品一覧資料は、槍田の言の通り、句集と照合し取捨選択の基準を探ることで、鷹女の俳句に対する志向を明らかにする重要な意義を有する。